

名古屋の思い出「名古屋都市センター」

昨日は名古屋の居酒屋「大甚本店」を振り返ったが、調査・研究面でお世話になった「名古屋都市センター」についても記録しておきたい。

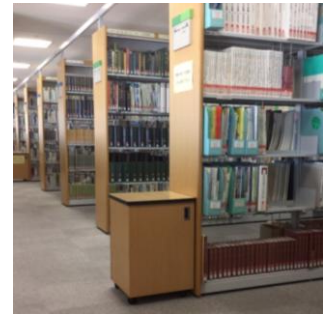
名古屋金山南ビルにある名古屋都市センターは、開設された時からよく利用している。金山駅に隣接したビルに入り、エレベーターで都市センターにまっすぐ向かう。名古屋の景色を眺めながら、12階まで一気に上る。名古屋都市センターは1991年、戦災復興土地区画整理事業の収束を記念して設立された。戦後の都市計画の歴史を継承し、まちづくりの調査研究の拠点として活動を続けている。設立された頃から資料集めに通ってきた。

1999年に現在の金山南ビルに移転した。金山南ビルは名古屋の副都心とされる金山地区のランドマークとして建設された。31階建ての超高層ビルにはホテルグランコート、名古屋ポストン美術館もある。残念ながら、美術館は2018年10月に閉館となった。名古屋都市センターのリーフレットによると、「まちづくりの交流拠点として、先見性のある総合的な調査・研究、まちづくりに不可欠な情報の収集・提供、まちづくりを担う人材の育成・交流を3本柱に事業展開」している。

11階には「まちづくり広場」があり、多くの市民が訪れている。常設展示コーナーでは、熱田の森の形成から始まり、戦後の復興土地区画整理事業を経て、現在まで続くまちづくりの足跡を紹介し、名古屋都心部の精巧な「都市の模型」などを展示している。企画展示コーナーでは、まちづくり関係の多彩な展示、参加・体験型の企画が開催される。

いつも利用しているのが12階にある「まちづくりライブラリー」である。全国に誇るまちづくりの専門図書館であり、都市計画・建築・交通・環境などの専門書をはじめ、雑誌や行政資料、名古屋の都市計画関連図が充実している。大学図書館にない雑誌なども多く、資料収集するうえで欠かせない場である。最近はじっくりと本を読む場としても、よく利用させてもらっている。窓辺の机から御岳などの山並をくっきり見ることができ、目の疲れを癒してくれる。

名古屋都市センターは、戦後名古屋の戦災復興と都市計画の貴重な遺産である。大阪にも、こんな都市センターがあれば活用するのだが。また名古屋に行った時に、訪ねてみよう。そのあとには伏見の居酒屋「大甚本店」にも行ってみたい。



(2024年1月22日)